

平成27年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	少	やや少
	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病(防除情報第16号)	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや少	やや少
	ハダニ類	やや多	やや多
たまねぎ	べと病	並	やや多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや多	やや多
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(3.8%)、発生圃場率は8.3%(32.6%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.0%(6.0%)、発生圃場率は25.0%(61.1%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率1.7%、発生圃場率28.2%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生果率0.0%、発生圃場率0.9%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.9%)。

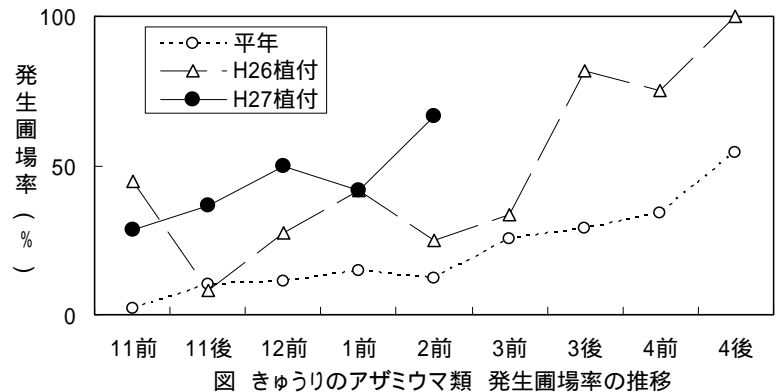
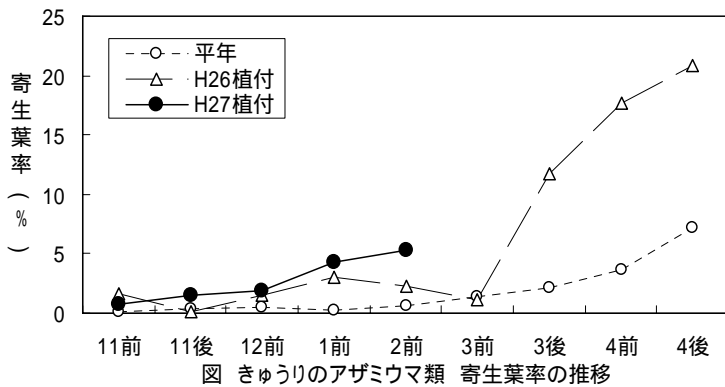
6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は5.3%(0.7%)、発生圃場率は66.7%(12.2%)であった。



(3) 防除上すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.2%(1.2%)、発生圃場率は25.0%(21.0%)であった。

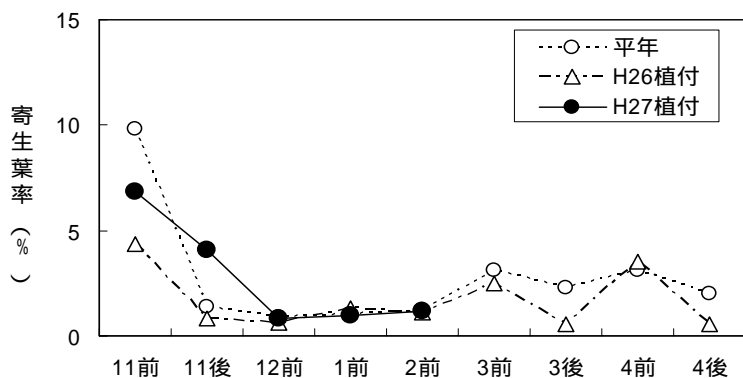


図 きゅうりのコナジラミ類 寄生葉率の推移

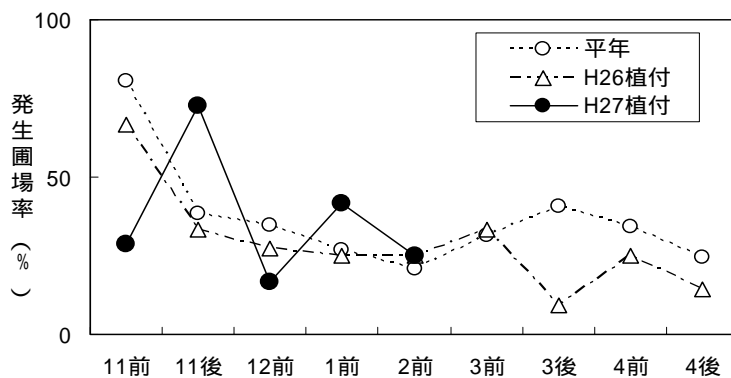


図 きゅうりのコナジラミ類 発生圃場率の推移

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(25.8%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めず(0.0%)、葉での発病葉率は1.7%(前年0.2%)、発生圃場率は50.0%(前年16.7%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.4%(過去5カ年平均0.3%)、発生圃場率は16.7%(同13.3%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.1%、発病果率0.0%、発生圃場率2.8%)

2. 灰色かび病

平成28年2月17日付け病害虫発生予察防除情報第16号による。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2%(0.7%)、発生圃場率は7.4%(10.6%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は6.3%(4.4%)、発生圃場率は63.0%(37.0%)であった。

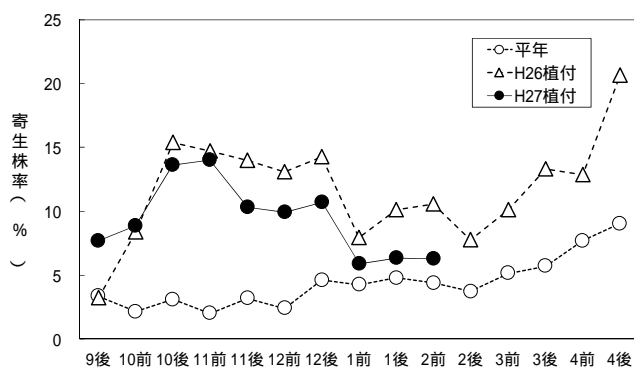


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平均: H17~H26の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H26の平均値

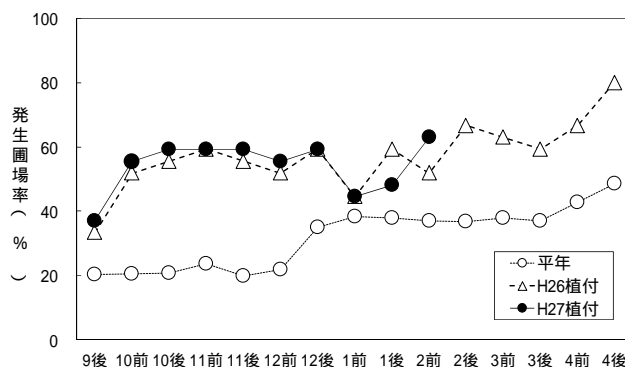


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平均: H17~H26の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H26の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、薬液が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。
- ウ 天敵を導入している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。なお、気門封鎖剤を活用する場合は、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

たまねぎ

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率2.2%)。

イ 1月20日に諫早湾干拓地で発生調査(7筆)を行った結果、越年罹病株が認められ、発生圃場率は28.6%であった。また、越年罹病株が確認された圃場を2月

2日に調査したところ、依然として発病株が確認された。
ウ 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 越年罹病株は二次感染の伝染源として最も重要である。圃場の見回りをこまめに行い、発見したら早急に抜き取り圃場外に持ち出して適切に処分し、直ちに薬剤散布を行う。

イ 病勢が進行すると防除困難となるので、早期発見・早期防除に努める。

ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率4.4%)。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は18.7%(14.0%)、発生圃場率は60.0%(64.9%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病株率は1.3%(過去8カ年平均0.4%)、発生圃場率は25.0%(同5.6%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(過去8カ年平均発病株率0.4%、発生圃場率7.0%)。

